消化器外科

I. スタッフ紹介

『消化器センター外科』

役職： 消化器外科主任部長

氏名： **寺嶋宏明**「専門領域：肝胆膵外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 指導医・専門医・認定医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会 評議員、日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器外科部長（2021年9月30日退職）

氏名： **上田修吾**「専門領域：消化管外科（食道外科・胃外科）、GIST、癌化学療法、免疫療法」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 専門医・認定医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医/暫定教育医、日本食道学会 食道科認定医/食道外科専門医/評議員、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器外科副部長

氏名： **福田明輝**「専門領域：消化管外科（大腸外科）、内視鏡外科、癌化学療法、腹部救急外科」

資格： 日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本内視鏡外科学会 技術認定医（大腸）、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本救急医学会 専門医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器外科副部長

氏名： **田中英治**「専門領域：消化管外科（食道外科・胃外科）、内視鏡外科、ヘルニア外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 指導医・専門医・認定医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本内視鏡外科学会 技術認定医（食道）、日本食道学会 食道科認定医/食道外科専門医/評議員

役職： 消化器外科副部長

氏名： **上村良**「専門領域：肝胆膵外科、消化管外科（大腸外科）、内視鏡外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 専門医、日本肝胆膵外科学会 評議員

役職： 消化器外科副部長（2022年3月31日退職）

氏名： **奥田雄紀浩**「専門領域：肝胆膵外科、内視鏡外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本肝胆膵外科学会 評議員、日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医、日本肝臓学会 専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本膵臓学会 指導医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器外科医員

氏名： **井口公太**「専門領域：肝胆膵外科、消化管外科（大腸外科）、内視鏡外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本肝臓学会 専門医、日本がん治療認定医機構 認定医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器外科医員

氏名： **奥知慶久**「専門領域：消化管外科、内視鏡外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 専門医、日本消化器外科学会

消化器がん治療認定医

役職：消化器外科医員

氏名：河合隆之 「専門領域：肝胆膵外科、内視鏡外科、ヘルニア外科」

資格：京都大学医学博士、日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本肝臓学会 専門医、日本移植学会 移植認定医、日本がん治療認定医機構 認定医、日本再生医療学会 認定医

役職：消化器外科医員（2021年4月1日採用）

氏名：山本健人 「専門領域：消化管外科、内視鏡外科」

資格：京都大学医学博士、日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本感染症学会 専門医、日本がん治療認定医機構 認定医、ICD 制度協議会 感染管理医師（ICD）

役職：消化器外科医員

氏名：久野晃路 「専門領域：消化器外科」

役職：消化器外科専攻医

氏名：西川裕太 「専門領域：消化器外科」

II. 診療・治療の特徴

☆消化器センター消化器外科の特色

医学研究所が設立母体である当院は、科学的根拠に基づき、患者さんにとって最適かつ最良の治療方法を見つけだし、その治療にあたることを理念とし医療を行っている。消化器癌治療においては、各種の癌診療ガイドラインに記載された標準治療をベースにしながら、最新の研究成果・知見を活かして、より治療効果の高い集学的治療を実践している。

手術手技については、ロボット支援手術を含めた内視鏡外科の導入率を経年的に増加させている（消化器手術（局麻のCV port 関連手術除く）における腹腔鏡手術施行率：2019年度=68%、2020年度=67%、2021年度=71.7%）。また再発癌に対しても、化学療法/化学放射線療法を併用しながら積極的に切除可能性を追求している。

年間の全手術数は730～770件（2021年度はcovid-19蔓延による診療制限の影響で670件と激減）、全身麻酔手術件数が570～640件（2021年度は581件）である。

食道癌

年間手術症例は5～10例。外科切除適応症例に対しては、低侵襲手術である胸腔鏡（VATS）+腹腔鏡（pure-Lap）手術の完全内視鏡手術を標準術式としている。進行食道癌に対しては術前化学療法/術後補助化学療法を導入し、治療成績向上を目指している。新規患者については、食道外科医/消化器内科医（消化管）/放射線科医/腫瘍内科医からなる「食道癌ユニット」で治療方針を検討している。

胃癌

年間手術症例は30例前後。完全腹腔鏡下胃切除（幽門側胃切除/噴門側胃切除/胃全摘）が標準術式であるが、2020年以降はdaVinciによるロボット支援胃切除実施率が急速に増加している（2021年度の腹腔鏡下胃切除におけるロボット支援胃切除の割合=40%）。高度進行胃癌（高度リンパ節転移例、スキルス胃癌など）に対しては、診断的腹腔鏡で腹膜播種や肝転移の有無など病期を正確に評価した上で、術前化学療法を導入して外科的切除を施行している。また、腹膜播種症例においては腹腔内化学療法を組み合わせた集学的治療（切除も考慮）で治療成績向上を目指している。

大腸癌

年間手術症例は110～130例。手術適応症例に対しては腹腔鏡下大腸切除術を原則としている（全大腸癌切除術における腹腔鏡手術施行率：2021年=79%）。高度進行直腸癌に対しては術前化学療法/化学放射線療法を導入し、腫瘍学的に根治性を損なわない肛門温存・自律神経温存手術を可能な限り目指している。また、症例選択/患者ニーズに応じて、ロボット支援直腸手術（2021年度：21例）を実施している。

大腸癌の大きな予後規定因子である肝転移に対しては積極的な肝切除を行っており、切除不能肝転移症例に対しても、全身化学療法により肝転移巣を縮小させた後に、原発巣と肝転移巣を切除する、“conversion surgery”を導入している。一方で、肝転移症例は肝切除後も高頻度に再発（肝、肺など）を認めるが、外科的切除（再肝切除/再々肝切除や肺切除/再肺切除）を積極的に組み入れて、治療成績向上を目指している。

肝癌（肝細胞癌/肝内胆管癌/転移性肝癌）

年間手術症例は30～40例。肝細胞癌は、腫瘍因子（個数、位置、局在）と肝機能の総合的評価により治療法が選択・決定される。当科では、肝機能が良好（肝障害AまたはB）で単発または2-3個までであれば、積極的に切除を行っている。近年、ウイルス非関連性の肝障害（NASH/NAFLDなど）からの発癌が増加しており、いわゆる生活習慣病フォロー中に診断される症例も多く見られ、切除適応症例の半分以上がこのような非B非C肝癌となっている。

肝細胞癌は何らかの慢性肝障害をベースに有するために、再発率も高い。消化器内科との協力のもと、嚴重な術後フォローアップを行っており、早期に再発を診断した上で、経肝動脈塞栓術（TACE）や経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）などの治療を実践している。また、症例によっては積極的に再肝切除（症例によっては腹腔鏡アプローチを導入）を施行している。

一方、大腸癌肝転移については、単発の切除可能症例については肝切除を先行しているが、多発肝転移では化学療法を先行導入し、腫瘍縮小効果を見ながら切除のタイミングを検討している。また切除不能症例においても、化学療法により腫瘍が縮小化し、肉眼的遺残のない切除が可能と判断すれば、切除の対象としている。肝切除後の再発症例でも、再肝切除や再々肝切除を積極的に行い（可能であれば腹腔鏡アプローチで）、長期予後改善を目指している。

膵胆道癌

年間手術症例は30～40例。膵癌については、画像診断（MDCT, MRI, FDG-PET）や内視鏡的診断（EUS, EUS-FNA, ERCP）の進歩により1cm以下のT1a/T1b症例のみならず、Tis症例（早期膵癌）の診断も可能となった。進行膵癌については、術前化学療法（症例によっては術化学放射線療法も併施）+神経叢温存下でのD2リンパ節郭清を伴う膵切除+術後補助化学療法（S1）という一連の集学的治療戦略を原則としている。一方、切除不能局所進行膵癌に対しては、化学療法や化学放射線療法が選択されるが、少なくとも6～8ヶ月の治療期間と治療効果を綿密に評価して、切除適応と評価すればconversion surgeryを行っている。術後再発時の化学療法（mFOLFIRINOXやGEM+nab-PTX）の治療成績向上もふまえ、当院における浸潤性膵管癌切除例の最新の治療成績は、1生87.5%、3生60.7%、5生41.3%となっている。なお、膵体尾部癌については、腹腔鏡下手術を原則としている。

胆管癌については、血管浸潤例を含めて外科的切除を原則としており、中・下部胆管癌には亜全胃温存膵頭十二指腸切除、肝門部・上部胆管癌には肝切除+胆道再建を基本術式としている。広範囲進展型胆管癌では、術前門脈塞栓後に肝膵同時切除（HPD）を施行する。また、門脈合併切除再建のみならず肝動脈切除再建にも積極的に取り組んでいる。

胆嚢癌については、壁深達度に応じて、m癌は単純胆摘（全層）、mp癌は胆摘+リンパ節郭清、ss癌は肝床切除+リンパ節郭清（+胆道再建）、se癌以上では肝切除（S4a+S5切除または右肝切除）+胆道再建+リンパ節郭清、を基本術式としている。

胆道癌で葉切除以上の肝切除が必要でかつ残肝容量が少ない場合には、術前門脈塞栓術を行い、残肝肥大を得た上での安全な手術を実施している。

その他

胆石症は年間 130～150 例（腹腔鏡下胆摘は 120～130 例）、ヘルニアは年間 80～100 例であり、腹壁癒痕ヘルニアや鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の導入率は年々増加している（2019 年度=49%、2020 年度=59%、2021 年度=79%）。

医療設備： MRI、MDCT、造影超音波診断装置、血管造影装置、RFA（ラジオ波焼灼装置）、超音波外科吸引装置（CUSA）、VIO、Vincent 3D 画像解析システム、da Vinci ロボット支援外科手術システム、内視鏡手術システム、Medical Imaging Projection System

☆手術症例数（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

1	全手術数（外来手術を含める）	670	例
2	鏡視下手術（補助下手術を含む、EMR・ESD は含まず）	429	例
3	全麻手術数	581	例
4	緊急手術数	144	例
5	術式別手術件数	全体	うち鏡視下手術
(1)	食道切除術	6 例	5 例
(2)	幽門側胃切除術（幽門保存切除術を含む）	31 例	26 例
(3)	胃全摘術（噴門側胃切除術を含む）	5 例	4 例
(4)	結腸切除術	91 例	64 例
(5)	直腸前方切除術	48 例	36 例
(6)	直腸切断術	2 例	0 例
(7)	肝切除術（葉切除以上）	6 例	2 例
(8)	肝切除術（区域・亜区域切除術）	22 例	6 例
(9)	肝切除術（部分切除その他）	16 例	7 例
(10)	膵頭十二指腸切除術	20 例	0 例
(11)	膵体尾部切除術	14 例	10 例
(12)	膵切除術（膵全摘その他）	2 例	0 例
(13)	乳房切除術	0 例	0 例
(14)	胆嚢摘出術	100 例	84 例
(15)	脾摘術	3 例	3 例
(16)	虫垂切除術	77 例	69 例
(17)	ヘルニア手術（小児を除く）	74 例	59 例
(18)	良性肛門疾患に関する手術	1 例	0 例
(19)	小児外科手術（ヘルニアも含む）	0 例	0 例

Ⅲ. 学会・講演・著作その他の研究活動

【学会】

- 1 河合隆之、石井隆道、内田洋一朗、小松原隆司、佐藤朝日、内藤滋俊、北口和彦、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、小木曾聡、福光 剣、瀬尾 智、藤川貴久、安近健太郎、廣瀬哲朗、財間正純、田浦康二郎、寺嶋宏明
KRAS 野生型大腸癌肝転移に対する解剖学的肝切除の有用性－肝切除法と予後に関する多施設共同臨床研究－
第 121 回日本外科学会定期学術集会 2021/4/8-10 (Web)
- 2 田中英治、西川裕太、久野晃路、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
低侵襲胃切除における安全な膈上縁 D2 リンパ節郭清-手術コンセプトの共通認識に基づく手技の定型化-
第 121 回日本外科学会定期学術集会 2021/4/8-10 (Web)
- 3 山本健人、三好弘之、河田健二、武藤 誠
大腸癌患者由来の癌幹細胞スフェロイドを用いた FGFR 阻害薬感受性スクリーニングの有用性と臨床応用への展望
第 121 回日本外科学会定期学術集会 2021/4/8-10 (Web)
- 4 内田洋一朗、川添准矢、嵯峨謙一、寺嶋宏明、田浦康二郎
Academic Surgeon 育成に向けた positive feedback させるシステム構築の有用性
第 121 回日本外科学会定期学術集会 2021/4/8-10 (Web)
- 5 Takayuki Kawai, Kohta Iguchi, Yukihiro Okuda, Ryo Kamimura, Hiroaki Terajima
Short- and long-term outcomes of pancreatic surgery for super-elderly pancreatic ductal adenocarcinoma: a single-center retrospective cohort study
第 33 回日本肝胆膵外科学会 2021/6/2-3 (Web)
- 6 Ryo Kamimura, Takayuki Kawai, Kohta Iguchi, Yukihiro Okuda, Hiroaki Terajima
The short-term and long-term outcomes of surgical treatment for ampullary carcinoma in Our hospital
第 33 回日本肝胆膵外科学会 2021/6/2-3 (Web)
- 7 田中英治
TAPP 技術認定取得を念頭においた当院での取り組み ～本気で取り組むとおもしろい～
第 6 回京都ラパヘル教育セミナー 2021/6/26 (Web)
- 8 山本健人、河田健二、喜安佳之、岡村亮輔、岡田倫明、板谷喜朗、肥田侯矢、小濱和貴
Prediction of surgical difficulty in minimally invasive surgery for rectal cancer by use of MRI pelvimetry
第 76 回日本消化器外科学会総会 2021/7/7-9 (hybrid Web) (京都)
- 9 上田修吾、西川裕太、伊藤聖顕、久野晃路、河合隆之、奥知慶久、上村 良、田中英治、福田明輝、寺嶋宏明
CY1 胃癌に対する術前化学療法の有用性
第 76 回日本消化器外科学会総会 2021/7/7-9 (hybrid Web) (京都)
- 1 0 奥田雄紀浩、久野晃路、河合隆之、奥知慶久、井口公太、上村 良、田中英治、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
当院における原発性十二指腸癌症例の検討
第 76 回日本消化器外科学会総会 2021/7/7-9 (hybrid Web) (京都)
- 1 1 上村 良、河合隆之、井口公太、奥田雄紀浩、寺嶋宏明
症例 (残肝容量不足が危惧される前区域を首座とする肝内胆管癌に対し、脾摘併施肝拡大右葉切除術を行った 1 例)

- 第 57 回日本肝癌研究会 2021/7/22-23 (hybrid Web) (鹿児島)
- 1 2 河合隆之、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、寺嶋宏明
術前診断困難であった超高齢 keratin 19 陽性肝細胞癌の 1 切除例
第 57 回日本肝癌研究会 2021/7/22-23 (hybrid Web) (鹿児島)
- 1 3 奥田雄紀浩、西川裕太、久野晃路、河合隆之、井口公太、上村 良、寺嶋宏明
悪性疾患に対する腹腔鏡下尾側膵切除 ～当院における現況と課題～
第 48 回日本膵切研究会 2021/8/27-28 (Web)
- 1 4 西川裕太、奥田雄紀浩、河合隆之、井口公太、上村 良、寺嶋宏明
良性の十二指腸狭窄を来した 14 歳男児に対して亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を施行した 1 例
第 48 回日本膵切研究会 2021/8/27-28 (Web)
- 1 5 上村 良、河合隆之、井口公太、奥田雄紀浩、寺嶋宏明
当院における切除可能 (R) 膵癌に対する術前治療導入の現状
第 48 回日本膵切研究会 2021/8/27-28 (Web)
- 1 6 重田祐衣、河合隆之、西川裕太、久野晃路、山本健人、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、
上村 良、田中英治、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
5cm を超える巨大十二指腸乳頭部腺腫の 1 切除例
第 638 回大阪外科集談会 2021/9/18 (大阪)
- 1 7 白井良宜、久野晃路、西川裕太、山本健人、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、
上村 良、田中英治、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃固定術を施行した一例
第 638 回大阪外科集談会 2021/9/18 (大阪)
- 1 8 田中英治、西川裕太、久野晃路、山本健人、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、
福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
106recL リンパ節郭清において臓器鞘の理解は郭清範囲の同定と設定に有用である
第 75 回日本食道学会学術集会 2021/9/23-24 (hybrid Web) (東京)
- 1 9 上田修吾、西川裕太、伊藤聖頭、久野晃路、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、
上村 良、田中英治、福田明輝、寺嶋宏明
Nivolumab 治療により長期病状安定している胸部食道癌 1 症例
第 75 回日本食道学会学術集会 2021/9/23-24 (hybrid Web) (東京)
- 2 0 久野晃路、西川裕太、山本健人、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、
田中英治、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
回盲部腸重積症にて緊急手術を施行し、びまん性大細胞性 B 細胞リンパ腫の診断に至った一例
第 83 回日本臨床外科学会総会 2021/11/18-20 (hybrid Web) (東京)
- 2 1 田中英治、西川裕太、久野晃路、山本健人、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、
上村 良、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
オーバーラップ法による腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合補強材付きステープラーによる食道切離は
有用である
第 34 回日本内視鏡外科学会 2021/12/2-4 (神戸)
- 2 2 山本健人、河田健二、喜安佳之、肥田侯矢、岡田倫明、岡村亮輔、板谷喜朗、錦織達人、
星野伸晃、久森重夫、角田 茂、小濱和貴
MRI Pelvimetry を用いた腹腔鏡下およびロボット支援下 TME の手術難度予測と両アプローチの比較
第 34 回日本内視鏡外科学会 2021/12/2-4 (神戸)
- 2 3 久野晃路、西川裕太、山本健人、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、
田中英治、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
内視鏡的整復困難であった胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃固定術を施行した一例
第 34 回日本内視鏡外科学会 2021/12/2-4 (神戸)
- 2 4 奥知慶久、田中英治、西川裕太、久野晃路、山本健人、河合隆之、井口公太、奥田雄紀浩、

- 上村 良、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
当院における cStage II 以上の噴門部胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術の安全性評価
第 34 回日本内視鏡外科学会 2021/12/2-4 (神戸)
- 2 5 西川裕太、河合隆之、田中英治、久野晃路、山本健人、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、
上村 良、福田明輝、上田修吾、寺嶋宏明
骨盤内腹膜窩ヘルニアを伴う右閉鎖孔ヘルニアに対して腹腔鏡下にメッシュを用いた修復術を
行った 1 例
第 34 回日本内視鏡外科学会 2021/12/2-4 (神戸)
- 2 6 白井良宣、久野晃路、河合隆之、山本健人、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、
福田明輝、田中英治、寺嶋宏明
胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃固定術を施行した一例
令和三年度京都大学外科冬季研究会 2021/12/19 (hybrid Web) (京都)
- 2 7 寺嶋宏明、河合隆之、井口公太、奥田雄紀浩、上村 良
MIPS を用いた real-time navigation hepatectomy の経験
第 4 回肝胆膵 MIPS Web セミナー 2022/2/28 (Web)
- 2 8 Yoshihisa Okuchi, Eiji Tanaka, Yuta Nishikawa, Koji Hisano, Takehito Yamamoto,
Takayuki Kawai, Kota Iguchi, Yukihiro Okuda, Ryo Kamimura, Shugo Ueda and
Hiroaki Terajima
A single-institution retrograde analysis for the safety of gastrectomy following
chemotherapy for advanced gastric cancer
第 94 回日本胃癌学会 2022/3/2-4 (hybrid Web) (横浜)
- 2 9 田中英治、西川裕太、久野晃路、山本健人、河合隆之、奥知慶久、井口公太、奥田雄紀浩、
上村 良、福田明輝、寺嶋宏明
手術コンセプトの共通認識に基づく手技の定型化は安全な膵上縁 D2 リンパ節郭清に有用である
第 94 回日本胃癌学会 2022/3/2-4 (hybrid Web) (横浜)
- 3 0 久野晃路、山本健人、河合隆之、奥知慶久 井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、田中英治、
福田明輝、寺嶋宏明
胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃固定術を施行した一例
第 205 回近畿外科学会 2022/3/5 (Web)
- 3 1 久野晃路、山本健人、河合隆之、奥知慶久 井口公太、奥田雄紀浩、上村 良、田中英治、
福田明輝、寺嶋宏明
腹腔鏡下に切除し得た虫垂結石を伴う急性穿孔性虫垂炎の 1 例
第 58 回日本腹部救急医学会総会 2022/3/24-25 (東京)
- 3 2 Yuta Nishikawa, Yukihiro Okuda, Takayuki Kawai, Kota Iguchi, Ryo Kamimura,
Hiroaki Terajima
Subtotal Stomach Preserving Pancreaticoduodenectomy for a 14-Year-Old Boy with Benign
Duodenal Stenosis
15th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association
2022/3/30-4/2 (hybrid Web) (New York)
- 3 3 Ryo Kamimura, Takayuki Kawai, Kota Iguchi, Yukihiro Okuda, Hiroaki Terajima
Two cases of splenectomy combined with hepatectomy for patients with insufficient
future liver remnant volume
15th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association
2022/3/30-4/2 (hybrid Web) (New York)

【論文】

(原著論文)

- 1 Tanaka M*, ..., Uchida Y, ..., Fukumoto T.
Salvage hepatectomy for local recurrence after particle therapy using proton and carbon ion beams for liver cancer.
Ann Gastroenterol Surg. 2021 May 7;5(5):711-719. (査読有り)
- 2 Mikami R, Tanaka E*, ..., Arii S.
The safety and feasibility of laparoscopic gastrectomy for gastric cancer in very elderly patients: short-and long-term outcomes.
Surg Today. 2021 Feb;51(2):219-225. (査読有り)
- 3 Ogiso S, Seo S*..., Kawai T, ...
Laparoscopic liver resection versus percutaneous radiofrequency ablation for small hepatocellular carcinoma.
HPB (Oxford). 2021 Apr;23(4):533-537. (査読有り)
- 4 Yamamoto S, Kawakami H*, ..., Ueda S, ...
Randomized phase II study of docetaxel versus paclitaxel in patients with esophageal squamous cell carcinoma refractory to fluoropyrimidine- and platinum-based chemotherapy: OGS1201.
European J Cancer. 2021 Sep;154:307-315. (査読有り)
- 5 Kawase T, Imamura*, ..., Ueda S, ...
Randomized phase II study of CPT-11 versus PTX versus each combination chemotherapy with S-1 for advanced gastric cancer that is refractory to S-1 or S-1 plus CDDP: OGS0701.
Int J Clin Oncol. 2021 Oct;26(10):1871-1880. (査読有り)
- 6 Kimura Y, Taura K*, ..., Okuda Y, ...
Utility of Mac-2 binding protein glycosylation isomer to evaluate graft status after liver transplantation.
Liver Transpl. 2021 Feb;27(3):403-415, 2021. (査読有り)
- 7 Yoshino K, Taura K*..., Okuda Y, ...
Novel mouse model for cholestasis-induced liver fibrosis resolution by cholecystojejunostomy.
J Gastroenterol Hepatol. 2021 Sep;36(9):2493-2500. (査読有り)
- 8 Murakami K, Obama K*, ..., Tanaka E, ...
Mesenteric closure after laparoscopic total gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction is effective for prevention of internal hernia: a multicenter retrospective study.
Surg Endosc. Doi: 10.1007/s00464-021-08744-z. (査読有り)
- 9 Yamamoto T, Kawada K*, ...
Combination of lymphocyte count and albumin concentration as a new prognostic biomarker for rectal cancer.
Sci Rep. 2021 Mar 3;11(1):5027. (査読有り)
- 10 Yamamoto T, Kawada K*, ...
Inflammation-Related Biomarkers for the Prediction of Prognosis in Colorectal Cancer Patients.
Int J Mol Sci. 2021 Jul 27;22(15):8002. (査読有り)
- 11 Yoshida S, ..., Tsunoda S*, Tanaka E, ...
Chronological changes in skeletal muscle mass two years after minimally invasive esophagectomy: A prospective cohort study.
Surg Endosc. 2022 Feb;36(2):1527-1535. (査読有り)
- 12 Okabe H*, ..., Tanaka E, ...
A long-term follow-up study of minimally invasive Ivor Lewis esophagectomy with linear stapled anastomosis.

Surg Endosc. 2022 Mar;36(3):1979-1988. (査読有り)

(症例報告)

- 1 Kato R, ..., Terajima H*.
Solitary metastasis of hepatocellular carcinoma to the rectus abdominis 13 years after the initial treatment.
ACG Case Rep J. 2021 May21;8(5):e00607. (査読有り)
- 2 Akuzawa D, Uchida Y, ..., Terajima H, Tsukamoto T*.
Polycystic liver disease with lethal abdominal wall rupture: a case report.
J Med Case Reports. 2021 Aug 3;15(1):421. (査読有り)

【研究】

- ①主催学会、研究会、セミナー（コロナ禍で活動制限あり）
 - ★第18回消化器センターK2-Net：2021/6/3（木）（web形式）
 - ★Kitano-Hospital Team Building Seminar：2021/7/10（土）
 - ★第19回消化器センターK2-Net：2021/10/14（木）（web形式）
- ②研究活動内容；文部科学省・厚生労働省・その他団体からの研究助成
 - ★肝虚血再灌流障害とその制御における概日リズムの関与（学術研究助成基金助成金 2021-2023年度 基盤研究C）（寺嶋宏明）
 - ★肝細胞癌における癌幹細胞を標的とした新規治療戦略構築に関する研究（学術研究助成基金助成金 2021-2023年度 若手研究）（河合隆之）
 - ★腫瘍発生の土壌となる遺伝子発現変化を制御することによる新規大腸癌予防薬の開発（学術研究助成基金助成金 2021-2023年度 若手研究）（奥知慶久）
 - ★プロピオン酸による肝虚血再灌流障害抑制メカニズムの解明（学術研究助成基金助成金 2021-2022年度 研究活動スタート支援）（川添准矢（客員研究員））
 - ★大腸癌幹細胞を用いた線維芽細胞増殖因子受容体阻害薬の感受性予測マーカーの開発（学術研究助成基金助成金 2021-2022年度 研究活動スタート支援）（山本健人）
 - ★NASH発癌発生過程を血液と肝臓プロテオームから解き明かす～ブタからヒトへ～（学術研究助成基金助成金 2019-2022年度 基盤研究C）（井口公太）
 - ★癌幹細胞の観点から見た肝癌におけるゲノム不均一性の解明（学術研究助成基金助成金 2019-2021年度 基盤研究C）（石井隆道、河合隆之）
 - ★大腸癌に対する線維芽細胞増殖因子受容体（FGFR）阻害薬の効果予測コンパニオン診断ツールの開発（公益財団法人安田医学記念財団 若手癌研究助成 2022年）（山本健人）
 - ★大腸癌幹細胞を用いた新規分子標的治療薬の感受性予測バイオマーカーの開発（大阪対がん協会 がん研究助成奨励金 2022年）（山本健人）
 - ★食物繊維配合の異なる飼料を用いた肝虚血再灌流モデルマウスにおける研究（イーエヌ大塚 共同研究助成 2018-2021年度）（寺嶋宏明、内田洋一朗（客員研究員））
 - ★大建中湯における肝虚血再灌流障害に対する保護効果に関する基礎研究（ツムラ 共同研究助成 2021-2022年度）（寺嶋宏明、内田洋一朗（客員研究員））
 - ★癌幹細胞を標的とした keratin 19 陽性 肝細胞癌に対する 新規治療法の開発（武田科学振興財団 医学研究助成 2020-2021年度）（河合隆之）

③共同研究施設

- ☆ 京都大学 肝胆膵移植外科
- ☆ 京都大学 消化管外科
- ☆ 名古屋工業大学 医用生体工学研究室
- ☆ 慶応大学 生化学教室
- ☆ 同志社大学 生命医科学部